

1. 略歴

1986年3月	東京大学文学部宗教学宗教史学専門課程 卒業
1986年4月	東京大学大学院人文科学研究科宗教学宗教史学専攻修士課程 入学
1988年3月	東京大学大学院人文科学研究科宗教学宗教史学専攻修士課程 修了
1988年4月	東京大学大学院人文科学研究科宗教学宗教史学専攻博士課程 進学
1991年9月	シカゴ大学大学院ディヴィニティ・スクール宗教史専攻留学 (至1994年6月)
1995年12月	東京大学大学院人文科学研究科宗教学宗教史学専攻博士課程単位取得退学
1996年1月	日本学術振興会特別研究員 (至1998年12月)
2001年4月	大正大学文学部国際文化学科助教授
2006年4月	大正大学文学部表現文化学科教授
2010年4月	大正大学文学部人文学科教授
2011年4月	東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻宗教学宗教史学専門分野准教授
2017年4月	同教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

宗教学 (理論研究・比較研究)、宗教と教育の関係、アメリカの宗教

宗教学の基礎でありながら、20世紀後半以降、方法として成立し難くなった「比較」に注目し、その観点から、理論研究を行うとともに、ケーススタディとして宗教と教育の関係や欧米の諸宗教を分析している。

b 研究課題

宗教比較の方法、宗教史の記述について、学界ならびに一般社会に見られる問題とその背景・原因を洗い出し、具体的対案を提示することを課題とする。個々の課題設定は以下の通りである。

(1) 比較理論の検討として、①欧米宗教学の変遷、②宗教分類概念の問題、③宗教に対する代替概念の問題をとりあげる。

①「比較宗教学 comparative religion」から出発した欧米の宗教学とその基礎前提が、その後通時的・実証的研究を重視することによってどのように変化したかを調べる。人文的宗教学と社会科学的宗教学の制度的位置関係についても、その歴史的変遷過程を明らかにする。

②「世界宗教」「民族宗教」の対概念をはじめ、宗教学で伝統的に用いられてきた宗教分類概念の妥当性を、昨今の批判理論に照らして検討する。

③2000年代以降の宗教現象を分析するために、ポスト・セキュラー論・概念がしばしば用いられるようになったが、それは日本の現状をとらえるのにどこまで有効かを検討する。

(2) 近現代社会の公教育において宗教がどう扱われてきたかに関する歴史的研究を行う。

ある国の公教育では宗教が排除される、他の国では宗教が取り込まれるという現象を、単に「宗教教育の有無」や「政教分離の有無」として見るのではなく、排除・吸収どちらの場合でもその前提として公権力により「宗教」が定義されているということに注目し、各国の教育制度と法令・教科書の中にその表れを探る。一般概念としての「宗教」のみならず、キリスト教、仏教といった各宗教に関する記述と、教育方法・思想や当該国の宗教・社会情勢の関係を調べる。対象国はイギリスとアメリカを中心とする。

(3) (2)の研究成果を踏まえ、国内の公教育における宗教の描き方・教え方に関する問題点を指摘し、改善のための具体的方策を示す。対象は中等教育から高等教育、社会人教育を含む。

c 概要と自己評価

上記の(1)(2)(3)の課題にはほぼ同時進行で取り組み、全てに関して書籍ないし論文によりまとめた成果を発表した (d 参照)。(1)の①②については論文集と国際ジャーナルに2本の英語論文を寄稿した。また、20世紀の比較宗教研究の代名詞であった、宗教現象学を受容と変容について10カ国の研究者の協力を得て調査を進めた。③についてはゲストエディターとして国際ジャーナルで特集号を編集した。続けて、21世紀の宗教情勢を俯瞰するシリーズ(4巻)の編集に携わった。(2)の宗教と公教育のテーマについては国際学会での口頭発表の他、イギリスの歴史と現状に関して単著を刊行した。その過程で、このテーマを信教の自由史に対する近年の学際的・国際的研究動向に結びつけ、意義を高めることができた。(3)については自らの実践を踏まえた英語論文を発表するほか、国際学会で口頭発表を行った。こ

の間、国際宗教学宗教学史学会 (IAHR)、国際哲学人文学会議 (CIPSH/WHC)、日本学術会議の役職に就いたが、そこでの経験は、以上の研究課題に取り組む上で視野を広げることに繋がった。

d 主要業績

(1) 著書

単著、藤原聖子、『ポスト多文化主義教育が描く宗教—イギリス〈共同体の結束〉政策の功罪—』、岩波書店、2017.3

(2) 論文

Satoko Fujiwara, “‘Geertz vs Asad’ in RE Textbooks: A Comparison between England’s and Indonesia’s Textbooks,” *Religious Education in a Global-Local World*, ed. by Jenny Berglund, Yafa Shanneik and Brian Bocking, pp. 205-222, 2016.7

Satoko Fujiwara, “Introduction: Secularity and Post-Secularity in Japan: Japanese Scholars’ Responses,” *Journal of Religion in Japan*, vol. 5, pp. 1-18, 2016.10

Satoko Fujiwara, “The Reception of Otto and *Das Heilige* in Japan: in and outside the Phenomenology of Religion,” *Religion*, 47/4, pp.591-615, 2017.7

Satoko Fujiwara, “This Is not a Religion!: ‘The Treachery of the Images’ of Aum, Yasukuni and Al-Qaeda in Japanese Textbooks,” *Textbook Violence*, ed. by Bengt-Ove Andreassen, James R. Lewis and Suzanne Anett Thobro, pp.27-52, 2017.8

藤原聖子、「ユダヤ教」、アメリカ学会編『アメリカ文化事典』、246-247 頁、2018.1

藤原聖子、「ニューエイジ・スピリチュアル」、アメリカ学会編『アメリカ文化事典』、226-227 頁、2018.1

(3) 書評

リチャード・ガードナー／村上辰雄共編著、『宗教と宗教学のあいだ—新しい共同体への展望』、『宗教研究』、91/1、164-170 頁、2017

(4) 学会発表

国内、藤原聖子、「「信教の自由」研究動向—普遍性・規範性への疑義—」、日本宗教学会、早稲田大学、2016.9.11

国際、Satoko Fujiwara, “‘Islamicized Buddhism’ in RE textbooks in England: How the Call for Community Cohesion Has Affected RE” American Academy of Religion, San Antonio, 2016.11.19

国際、Satoko Fujiwara, “Study-of-Religion-Based Religion Education Worldwide” South and South East Asian Association for the Study of Culture and Religion, Vietnam Buddhist Research Institute, Ho Chi Minh City, 2017.7.10

国際、Satoko Fujiwara, “How Religion Is Taught Differently in Different Countries” World Humanities Conference, Liege, Belgium, 2017.8.8

国内、藤原聖子、「歴史のなかの大学と宗教研究」、司会、日本宗教学会、東京大学、2017.9.15

国内、藤原聖子、「Reconsidering Religious Studies in Modern Japan in Light of the Institutionalization of Universities」、司会、日本宗教学会、東京大学、2017.9.16

(5) 会議主催(チェア他)

国際、World Humanities Conference、実行委員、Liege, Belgium、2017.8.6~2017.8.12

国内、「Round table discussion II: “The impact of the Social Sciences and the Humanities”」、司会、The Impact of the Humanities and Social Sciences. Discussing Germany and Japan、Deutsche Forschungsgemeinschaft (DFG)、東京ドイツ文化会館、2017.11.14

(6) 研究テーマ

文部科学省科学研究費補助金、基盤研究 B、藤原聖子、研究代表者、「宗教現象学の歴史的変遷と地域性に関する包括的研究」、2016.4~

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、大正大学、2011.9~2017.8

(2) 学会

国内、日本宗教学会、理事

日本宗教研究諸学会連合、幹事、2014.12~

国際、World Humanities Conference (CIPSH/UNESCO)、Core Group Member、2016.1~2017.8

国際、International Association for the History of Religions、Publications Officer、2015.8~、Acting Secretary General、2017.7~

国際、American Academy of Religion、steering committee member of the program unit, Religion and Public Schools:

International Perspective Group、2015.11~

学術誌編集委員

British Journal of Religious Education (2006～)

Numen (2010～)

Religion and Education (2011～)

Journal of Religion in Japan (2012～)

(3) 学外組織(学協会、省庁を除く)委員・役員

独立行政法人、サイエンスアゴラ (科学技術振興機構)、審査委員、2017.4～

日本学術会議、第一部会員、2014.10～、第一部幹事、2016.10～、第一部副部長、2017.10～